

- 回答者数は、教職員 28/28 名、保護者 25/28世帯、生徒26/29 名
- 全16項目中、教職員《具現化》を問う2項目で、低評価(a,b 併せて 80%以下)であった。それ以外の項目については、高評価(a,b 併せて 80%以上)であった。

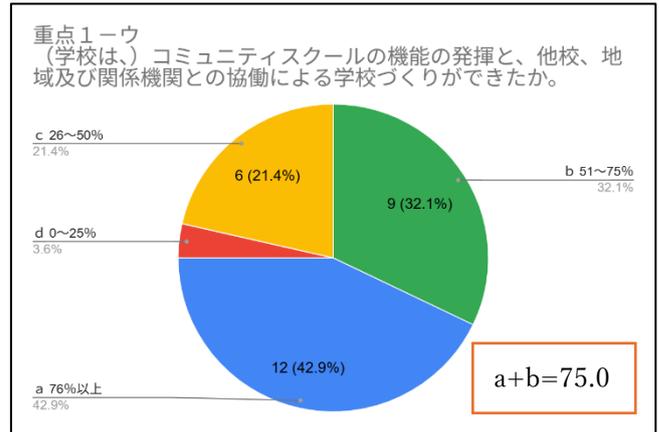
1 教職員評価《具現化》で低評価の項目

(1) コミュニティスクールの機能発揮、他校・地域及び関係機関との協働による学校づくり

教職員《具現化》75% 《取組状況》82.1% 保護者 92%

・保護者は、高評価である一方、教職員は、取組が不十分と感じていたり、具現化には十分に至っていないと感じていたりする傾向。より教職員のアイデアを生かした教育活動と実行力が求められている。

(例:地域資源を生かした作業学習、ほっこりふれあいプロジェクト、地域の学校との交流学习、学校運営協議会での意見の具現化や教職員の参画などコミュニティ・スクールの活性化、地域及び関係機関との協働による授業及び学校行事の工夫と実施など)

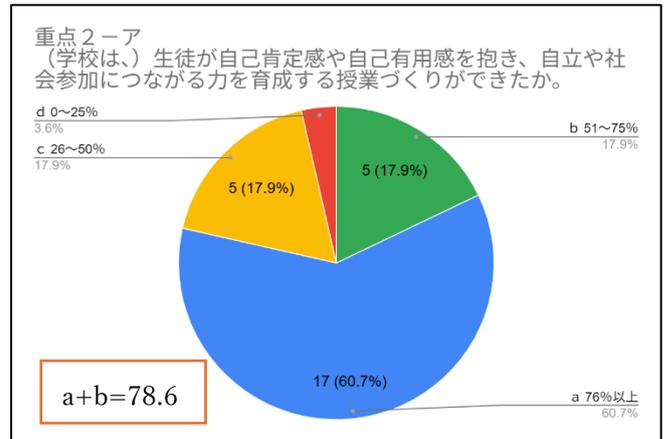


(2) 自己肯定感や自己有用感を抱き、自立や社会参加につながる力を育成する授業づくり

教職員《具現化》78.6% 《取組状況》92.8%

・よりよい授業づくりに努めているが、具現化には十分に至っていないと感じている傾向。育成したい資質能力を明確にし、より系統立てた指導計画と授業実践が必要と考えられる。

(例:授業のねらいに応じた適切な指導体制の工夫、個別と集団の効果を踏まえた効果的な授業の展開、コミュニケーション能力や対人関係の向上につながる授業づくり、Plant や研修促進費の有効活用、など)



2 全体的に高評価であるものの保護者評価との間に差があると思われる項目

(1) 生徒の人権を尊重し、生徒の心情に寄り添った指導の充実

教職員《具現化》92.9% 《取組状況》92.9% 保護者 84.0%

・生徒の共通理解と発達段階や生活年齢を踏まえた指導、生徒心理の理解や研修など、丁寧な指導と研修、保護者説明等ができるとうい。

(例:客観的なスケール等による生徒の状況の適切な把握、生徒の状況及び配慮事項等の校内での共有と関係機関も交えた組織的な対応、人権に関する研修の実施、通信・連絡ノート・X 等様々なツールを活用した保護者への情報発信など)

## (2) 生徒の社会的・職業的自立に向けた協働的・組織的な進路指導

教職員《具現化》96.5% 《取組状況》96.4% 保護者 80%

- ・教職員が高評価なのに比べ、「あまりできていない」「わからない」と答えた保護者が20%いる。日頃から保護者と生徒の実態や進路の情報の共有をはかるとともに、制度等の理解をより一層図っていく必要がある。  
(例:地域及び関係機関との協働による組織的な進路指導の実施、校内における情報共有、様々なツールを活用した適切かつ適時的な情報発信など)

## (3) 危機管理マニュアルの改善及び整理と、実践的なシミュレーションによる危機管理体制の充実

教職員《具現化》89.3% 《取組状況》85.7% 保護者 84.0%

- ・教員、保護者ともに、「取り組む上で工夫が必要」「あまりできていない」「わからない」という回答が、他項目に比べて多く見られた。日頃からの危機管理意識を高めるとともに、保護者への情報発信が必要と考えられる。  
(例:危機管理マニュアルの整備と校内での共通理解、関係機関との連携による実践的な訓練の実施、具体事例を踏まえた危機管理に関する研修の実施、様々なツールを活用した保護者への情報発信など)

## 3 生徒アンケートより

### (1) 肯定的評価が高い項目(a,b 併せて 80%以上)

「学力」「働く力」「集中力」「伝える力・話す力」「相談する力」「進路を考える力」

### (2) 肯定的評価が低い項目(a,b 併せて 70%以下)

「体力」(69.2%) 「人や友達と関わる力」(69.3%)

- ・個々の生徒が自分のことをよく振り返りながら具体的に回答していると思われる。
- ・肯定的評価が低い項目の「体力」および「人や友達と関わる力」(69.2%)は、昨年度は肯定的評価が高い項目にあがっていた。生徒の実態もあると思うが、生徒指導との関連を図りながら、組織的・計画的に取組を図っていく必要があると考えられる。

## 4 昨年度との比較

- (1) 交流及び共同学習、CSの機能を生かした学校づくりについては、昨年度も低評価項目であった。
- (2) 分掌業務の適正化や働き方改革については、改善が見られた。